

## 留学報告書

2年 野俣佳那

私は4か月間ロシアのウラジオストク国立経済大学に留学してきました。なぜロシアコースを選択し、留学をしようと決めたのかと留學生活を中心に述べていきます。

はじめに、なぜロシア語を選択し、留学を決めたのかという理由はいくつかあります。本学ではアメリカ、中国、韓国、ロシアの4つの言語からひとつのコースが選択できます。そして、その選択したコースによって派遣留学の行き先が決まります。私は、中学生くらいから海外に興味を持っていて、将来は海外に住みたいという気持ちがありました。ですから、大学では留学は絶対にしたいという思いがあり、大学入学当初はアメリカに行くことのできる英語集中コースにしようと決めていました。というのも、洋画が好きでアメリカの生活にあこがれていたのとほかの国についてあまり知識がなかったためでした。しかし、大学の授業や報告書や先輩の話を聞いていくと、ほかの国についての知識が得られ、徐々にロシアに対しての関心が高まりました。私はヨーロッパの街並みや食に対して興味を持っていて、いつかヨーロッパに行きたいと思っていました。ロシアは人も街並みもヨーロッパに似ていて、ではどこがどのようにヨーロッパやアメリカと違うのかが気になったのが一つ目の理由です。二つ目の理由は、新潟はロシアとの交流が盛んなことです。ロシアは、とても大きな国で日本からは遠い国だと思われがちですが、新潟からロシアの極東にあるウラジオストクまでは飛行機一時間半ほどで着いてしまうのです。そのため新潟は日本の中でも日露交流の玄関口といわれていますが、日本ではロシア語を勉強できる大学は少ないようです。せっかく交流が盛んな新潟で話せる人が少ないのは残念に思いました。三つ目の理由は、先輩の経験談です。留学に行った先輩はロシアに行ったら本当に良かったと聞いた人全員が言っていました。日本との違いに戸惑った話や、他国の留学生と交流した話を聞き、聞いただけではなく、自分の目でロシアはどんなところなのかを知りたかったため、ロシアコースを選択し留学に行くことを決意しました。

つぎに、留學生活を振り返っていきます。ここでは、留學までの準備、学校・寮・授業後・休日の過ごし方を中心に述べていきます。

留學までの準備は学校が提携している大学と全部学費や寮など手続きをしてくれるため、自分でやることは少なかったのが大変ではありませんでした。ただし、生活用品や服はどのようなものをどのくらい持っていけばいいのかわからず、先輩などから情報を収集しました。

9月8日、成田空港から飛行機に乗ると、ロシア人の客室乗務員やお客さん、アナウンスがロシア語などで別世界にいるようでした。少し出発が遅れましたが2時間半ほどでロシアにあるウラジオストクにつきました。まず入国審査で言葉がわからないので緊張しましたが、無事プラーソル先生や向こうでお世話をしてくれるカーリーナさんと合流できました。大学のバスで、日が暮れていくウラジオストクの街並みを見ながら1時間ほどで町の中心

部にある大学に到着しました。日本とは看板の文字や街並みも建物も違いロシアに来たのだという実感がわきました。緊張している中、寮の手続きをして自分の部屋に行きました。寮はとても広く 2 つの大きな建物に分かれていてロシアや中国など様々な国の人がたくさん生活していました。私たちの寮のエリアは韓国人のグループと一緒に、暖かく出迎えてくれました。二人一組で一つの部屋で二つの部屋に共同のキッチン、シャワー、トイレがありました。私の部屋は私以外がロシア人で、はじめは言葉が通じなく戸惑ってばかりでしたが、翌日に日本語を勉強しているダーシャというルームメイトが来ました。彼女はとても優しく、可愛くて、頭がいいので私がわからなさそうにしていると丁寧にわかりやすい言葉に直して教えてくれました。はじめは、ロシア語があまりわからなかったので簡単な英語でコミュニケーションをとっていました。時間が経つにつれて、ロシア語や日本語でお互いのことについてたくさん話しました。互いに宿題やわからないことについて聞きあい、ロシアの若い人は休日に何をして遊ぶのかなど世間話をし、授業とはまた違ったことがわかりました。ダーシャは私たちのグループの世話係りで寮でのわからないことや休日に町案内をしてくれました

ロシアに到着して初めて学生食堂で食事しました。食堂のおばさんにショーケースの中の何がほしいのかをいい、トレーにのせ、最後に会計をしていくシステムです。食堂のおばさんやスーパーなどで英語を話しても通じないことが多いので簡単なロシア語と世話係のロシア人学生に補助してもらいました。食事もそれほど食べられないというものはなかったですが、マヨネーズがたくさんかかっているチキンや魚料理が多く、自分で作るのが面倒な時は立ち寄っていました。学校内には、カフェがたくさんあってお昼になるとたくさんの学生がみられました。学校の一番下の階には携帯ショップ、スーパー、薬局、雑貨店など様々な店があって慣れるまでは、そこを利用していました。買い物をする際、口頭で言われるので最初は早すぎて聞き取れなかったです。留学以前に、授業で先生に数字はお覚えておくべきといわれましたが、本当に数字は大事なのもっとしっかり勉強しておくべきだったとその時改めて感じました。

寮での生活は、基本的に自炊なので歩いてすぐに行けるスーパーを利用していました。まったく見たことのない食品がたくさんあって、いつも買い物しすぎてしまいました。寮では、ダーシャに教えてもらいながらロシア料理のブリヌイ（クレープのようなもの）やペリメニ（水餃子）を一緒に作り、日本の味噌汁や唐揚げを作り食べてもらいました。お互いの国の家庭料理を作って食べることでとてもいい経験でした。毎日掃除のおばさんが部屋を掃除してくれます。洗濯は寮の一番下でお金を払うと翌日にはきれいな状態で帰ってきて、シーツも毎週交換することができます。想像していたよりもずっと衛生的で安心しました。

学校内をお世話係りのカーリーナさんとまわりました。学校は坂の上にあって、敷地がとても広いです。国際関係や報道関係、ファッション、美容など様々なことが学べるため施設が充実していました。プールのあるスポーツジムや、ライブハウス、ステージのある大

きな劇場、美容室などあって驚きました。寮と学校は隣接していて、エスカレーターでつながっています。冬場は、気温がマイナスの日がほとんどで外に出て寒い思いをすることなく行くことができます。さらに、屋内は廊下にも暖房があってとても過ごしやすかったです。

数日後に授業が始まりました。私たちのグループは 6 人で半分に分かれてそれぞれ授業を行いました。毎日 3 コマで午前中は文法、会話、聞き取りなど 2 コマ、その後 1 コマの間お昼休みで、午後から音楽、美術、歴史、地理など 1 コマという日程でした。韓国、中国、台湾、アメリカ、ドイツなどから来た人、まったく年の違う人など様々な留学生がいました。私のクラスには、中国人、韓国人、ウズベキスタン人 10 人ほどで午前の授業を受けていました。共通言語がロシア語ではじめは、ぜんぜんわからなかったので相手が何を言っているのか、自分の伝えたいことはどのように伝えればいいのかわかりませんでした。けれども、時間が経つにつれ、ロシア語も少しレベルが上がり、以前よりコミュニケーションがスムーズになりました。ジェスチャーなどで伝えようとする姿勢はもちろん大事ですが、明確に相互を理解しあうには言語が大事だと改めて感じました。

授業後や休日はロシア人のお世話係りや先生が様々な場所へ連れて行ってくれました。お世話係は、ダーシャのほかにも何人もいてウラジオストクの観光地やおいしいカフェや大きなスーパー、デパート、映画館、バレエ・オペラ劇場、動物園、水族館、スケート場、サウナなど様々な場所へ連れて行ってくれました。ウラジオストクの交通機関は、バス、電車、タクシー、車などありますが、バス、車が主に使われていて、私たちはバスをよく使いました。大学のすぐそばにバス停があって町にすぐ行くことができますし、値段も 20 ルーブル(約 40 円)と安く頻繁に利用していました。町には、毎週土曜に市場が開かれ、新鮮な食品が並んでいて多くの人でにぎわいます。カフェやレストランがたくさんあり、授業後や休日は外食することが多かったです。留学以前は、口に合わないか心配でしたが、日本、韓国、中国、アメリカなど日本で食べていたものと変わらないものを食べることができたのであまり不自由に思いませんでした。

授業や寮生活に慣れていくと、友達になった韓国人や台湾人、中国人などの留学生と遊ぶことが多くなりました。ハロウィンや誕生日には、韓国人、中国人の友達とパーティに行き、その友達のロシア人を紹介して



してもらって友達になって様々な国の人と交流できて楽しかったです。まわりの外国人の友達は、自分よりもロシア語が上手でロシア人の言っていることがわからないときや映画をみているとき、いつもわかりやすく教えてくれました。過ごす時間が多くなるにつれ、ロシアだけで

なく、他国への関心も深まりました。12月になるとみんな自分の国に帰国するので、別れがとても寂しかったです。

たった4か月間でしたが、ロシアで出会った人たちは絶対に忘れないと思います。留学以前は、ロシア人は冷たいなどマイナスのイメージを持っていました。けれども、優しく接してくれる人がほとんどでステレオタイプを持っている自分に気づくことができました。留学生活は毎日楽しくて、発見も多かったです。また機会があればロシアに留学したいですし、世界中を訪れたいと思うようになりました。これからもその経験を忘れず、語学の勉強を続けていきたいです。спасибо！

